御影北だより　令和５年度　１月号

神戸市立御影北小学校　https://www.kobe-c.ed.jp/mkk-es

今年は辰年です。空を昇る辰の姿は、昔から縁起のいいものとされていたそうです。
みか北っ子が天に昇る昇り龍のように上昇していく勢いのある１年になりますよう、職員一同がんばっていきたいと思います。
今年も本校の教育活動にご理解とご協力のほど、よろしくお願いします。

１月 17 日。阪神・淡路大震災が起こったあの日。あれから 29 年がたとうとしています。悲しいことに、今年の元旦には能登半島地震が起こり、多くの尊い命が失われました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様方ならびにそのご家族の皆様方に心よりお見舞い申し上げます。改めて、いつどんなことが私たちの身に起こるかわからないという事を感じました。命あることに感謝するためにも、私自身の震災体験についてお話しさせていただきます。

私は、平成７年１月 17 日午前２時 48 分に、第一子を出産しました。場所は須磨区の板宿のあたりです。出産して約 3 時間後に地震が起こりました。何が起こったのかもわからないまま、産まれたばかりの我が子を抱いて、産院から外に出ました。しかし近くの小学校の校門は閉まっていて、避難することもできず寒い空の下、途方に暮れていました。電信柱は倒れ、目の前の病院は崩れ、多くの人が同じように外に出ていました。幸い私が出産した産院は頑丈に造られており、しばらくしてから中に戻ることができました。しかしその産院の待合室には、けがをした人や向かいの病院から避難をしてきた患者さん達であふれていました。病室は危険なので中に入らず、何かあった時にいつでも動ける待合室に集められていました。私はとにかく我が子を抱いて、度重なる余震や、近くで起こっていた火事の現状を目の当たりにし、震えていました。そんな時、そばにいた人たちが「赤ちゃんいつ産まれたの。」「大変だったでしょう。でも無事に産まれていてよかったね。」と、話しかけてくれたり、毛布を掛けてくれたり、震える私の背中をずっとさすってくれたりしてくれました。自分たちも大変な状況なのに、私達を気遣ってくださる人のやさしさに支えられて、恐怖の時間を何とか過ごせたことは何十年たった今でもしっかりと憶えています。当時、私が住んでいた場所は、東灘区の阪神高速道路が崩れ落ちたすぐ近くだったので、もしも、あと数時間産気付くことが遅れていたら、命はなかったのかもしれません。お腹の子が私達の命を救ってくれたのです。

私は奇跡が重なり、周りの方々のおかげで助かりましたが、この地震に奪われた大切な命は余りにも多く、何年何十年たってもこの悲しみが薄れることはありません。昨日まで当たり前のように過ごしていた日常が突然奪われたのですから。命あることは当たり前ではなく、奇跡的な事だということを、１月 17 日が来るたびに改めて思います。悲しみの中でも前を向いて生きている方々がいて今の神戸があることを忘れません。そして、これからも私が経験した事や命の大切さを子供たちに伝え続けていきたいです。

初夢や明るき未来語る子等　　校長　生田　真紀